



## 平成29年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年8月2日

上場会社名 山崎製パン株式会社  
 コード番号 2212 URL <http://www.yamazakipan.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 飯島 延浩  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 吉田 輝久  
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

上場取引所 東  
 TEL 03-3864-3110

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年12月期第2四半期の連結業績(平成29年1月1日～平成29年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期第2四半期	522,979	0.4	16,816	△13.6	17,823	△9.8	10,503	11.8
28年12月期第2四半期	520,668	2.4	19,458	50.8	19,767	45.6	9,398	135.5

(注) 包括利益 29年12月期第2四半期 13,790百万円 (204.3%) 28年12月期第2四半期 4,532百万円 (△65.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年12月期第2四半期	47.87	—
28年12月期第2四半期	42.83	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年12月期第2四半期	683,136	312,948	42.3
28年12月期	703,886	302,922	39.6

(参考) 自己資本 29年12月期第2四半期 289,096百万円 28年12月期 278,776百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年12月期	—	—	—	18.00	18.00
29年12月期	—	—	—	—	—
29年12月期(予想)	—	—	—	18.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成29年12月期の連結業績予想(平成29年1月1日～平成29年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,051,000	0.9	37,000	5.2	38,000	3.0	19,700	8.4	89.77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無
- (注)詳細は、添付資料11ページ「(4)四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年12月期2Q	220,282,860 株	28年12月期	220,282,860 株
② 期末自己株式数	29年12月期2Q	843,337 株	28年12月期	842,777 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年12月期2Q	219,439,857 株	28年12月期2Q	219,445,511 株

※四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

なお、第2四半期決算短信補足説明資料の6ページにセグメント別の売上高及び営業利益の予想を記載しております。

当社は、平成29年8月7日(月)に機関投資家及び証券アナリスト向け四半期決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料等については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

## ○ 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(会計方針の変更)	11
(セグメント情報等)	11
3. 補足情報	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（平成29年1月1日～平成29年6月30日）におけるわが国経済は、景気は緩やかな回復基調で推移しましたが、個人消費は緩やかに持ち直しているものの実質賃金の伸び悩みもあり力強さを欠くものとなりました。

当業界におきましては、お客様の節約志向が根強い市場環境の下で販売競争が激化する厳しい経営環境となりました。

このような情勢下にありまして、当社グループは、品質向上と新製品開発に積極的に取り組み、「厳選100品」を中心とした主力製品の取扱拡大につとめるとともに、高品質・高付加価値製品を開発する一方で値頃感のある製品を投入して消費の二極化への対応をはかるなど、営業・生産が一体となった部門別製品戦略・営業戦略を推進してまいりました。

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、当社グループの総力を挙げて「ヤマザキベストセレクション」を中心にパン、和洋菓子、米飯、サンドイッチ、調理麺の品質向上と新製品開発に取り組むとともに、焼きたてパンや手づくりの弁当・サンドイッチの品揃えの強化をはかるなど、店舗売上の増加をめざしました。また、デイリーヤマザキのリージョンと各工場が一体となって、重点管理店を中心に店舗運営の改善を推進し、重点エリアを設定した店舗開発や、店内加工機能の導入など店舗機能強化のための改装に取り組みしました。

当社は、デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業において、下請代金支払遅延等防止法に違反する行為が認められたとして、平成29年5月10日に公正取引委員会から勧告を受けました。当社は、今回の勧告を真摯に受け止め、役員及び全従業員に対し勧告内容を周知徹底するとともに、社内研修を実施するなど再発防止と法令遵守の徹底につとめてまいります。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は5,229億79百万円（対前年同期比100.4%）、営業利益は168億16百万円（対前年同期比86.4%）、経常利益は178億23百万円（対前年同期比90.2%）となりましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益は法人税率引下げに伴う税負担の軽減もあり、105億3百万円（対前年同期比111.8%）となりました。

セグメント別の状況

## &lt;食品事業&gt;

食品事業の主要製品別の売上状況は次のとおりであります。

## ①食パン部門（売上高507億66百万円、対前年同期比101.0%）

食パンは、「ロイヤルブレッド」、「超芳醇」、「ダブルソフト」の3大ブランドを中心に売場づくりを推進し品質訴求による拡販につとめ、新製品「ロイヤルブレッドプレミアム」を発売しブランド力の強化をはかりました。また、「レーズンゴールド」、「チーズゴールド」に加え、新製品「チョコゴールド」を投入してゴールドシリーズの取扱拡大をはかり、食パン全体で数量・販売単価ともに上昇し、順調な売上となりました。

## ②菓子パン部門（売上高1,807億97百万円、対前年同期比99.3%）

菓子パンは、お客様の節約志向の影響が強まる厳しい状況の中で、ヤマザキ菓子パンや「ミニスナックゴールド」など主力製品の品質向上をはかるとともに、ヤマザキグループ独自の技術とルヴァン種を活用したハードロールの新製品「パン・オ・ルヴァン」シリーズを発売するなど売上の回復をはかりましたが、コンビニエンスストア向けドーナツの売上減少の影響が大きく、前年同期の売上を下回りました。

## ③和菓子部門（売上高343億34百万円、対前年同期比101.0%）

和菓子は、主力の串団子や大福、まんじゅうが堅調に推移するとともに、品質向上した「ホットケーキサンド」が伸長し、順調な売上となりました。

## ④洋菓子部門（売上高665億66百万円、対前年同期比100.1%）

洋菓子は、2個入り生ケーキなどのチルドケーキが堅調に推移するとともに、スペシャルシリーズなどのスナックケーキが好調に推移し、前年同期の売上を確保しました。

## ⑤調理パン・米飯類部門（売上高762億80百万円、対前年同期比105.8%）

調理パン・米飯類は、食パンの品質を向上させたサンドイッチが、デイリーヤマザキを中心にコンビニエンスストアチェーンでの取扱が拡大し大きく伸長するとともに、(株)サンデリカの手量販店やコンビニエンスストアチェーンとの取引が拡大し、大幅な売上増となりました。

## ⑥製菓・米菓・その他商品類部門（売上高796億32百万円、対前年同期比98.3%）

製菓・米菓・その他商品類は、(株)不二家の「カントリーマアム」や(株)東ハトの「オールレーズン」などが好調に推移しました。ヤマザキビスケット(株)は、主力製品の「チップスター」や前期に発売した「ルヴァン」、「YBCスタンドパック」などの取扱拡大につとめました。ビスケット、クラッカーの売上逸失が大きく、売上減となりました。

以上の結果、食品事業の売上高は4,883億78百万円（対前年同期比100.5%）、営業利益は165億64百万円（対前年同期比85.1%）となりました。

## &lt;流通事業&gt;

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、直営店舗数の減少もあり営業総収入は294億45百万円（対前年同期比98.3%）、営業損失は8億13百万円（前年同期は9億83百万円の営業損失）となりました。

## &lt;その他事業&gt;

その他事業につきましては、売上高は51億55百万円（対前年同期比107.4%）、営業利益は8億1百万円（対前年同期比116.2%）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は6,831億36百万円で、前連結会計年度末に対して207億49百万円減少しました。流動資産は2,239億91百万円で、受取手形及び売掛金の減少等により、前連結会計年度末に対して270億54百万円減少しました。固定資産は4,591億45百万円で、有形固定資産の新規取得や、投資有価証券の増加等により、前連結会計年度末に対して63億5百万円増加しました。負債合計は3,701億88百万円で、支払手形及び買掛金等の支払債務の減少や借入金の返済による減少等もあり、前連結会計年度末に対して307億75百万円減少しました。純資産は3,129億48百万円で、利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末に対して100億26百万円増加しました。

この結果、自己資本比率は42.3%となりました。

## (キャッシュ・フローの状況)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益168億23百万円に加え、減価償却費176億40百万円、売上債権額の減少240億91百万円などにより431億14百万円のプラスとなりました。前年同期に対しては19億88百万円収入が減少しました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得などにより326億17百万円のマイナスとなり、前年同期に対しては163億17百万円支出が増加しました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済、配当金の支払などにより134億51百万円のマイナスとなりましたが、前年同期に対しては19億円支出が減少しました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は1,014億10百万円となり、前連結会計年度末残高に対しては29億33百万円の減少となりました。

## (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しといたしましては、わが国経済は、緩やかに回復していくことが期待されますが、当業界におきましては、お客様の節約志向が根強く販売競争が激化する中で、下期には小麦粉など原料価格やエネルギー価格の上昇も予想され、収益面で厳しさを増すことが予測されます。

このような状況下にあります、当社グループは、引き続き品質向上と新製品開発を積極的に行い、「厳選 100 品」を中心とした主力製品の取扱拡大をはかるとともに、消費の二極化に対応して高品質・高付加価値製品や値頃感のある製品の開発につとめるなど、営業・生産が一体となった部門別製品戦略・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、着実な売上拡大をめざしてまいります。また、製品のアイテム数を適正な水準に管理して、生産面、物流面の効率化につとめ、品質訴求によって効果的な販売活動を推進するとともに、人手不足感の強まる中で業務の効率化によって生産性の向上をはかり、収益の確保をめざしてまいります。

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、デイリーヤマザキの商品本部を充実強化し、当社グループの知恵と知識を駆使した商品企画開発によって種蒔きの仕事を確実に実施し、競争力のある製品づくりを積極的に行い、業績の回復をめざしてまいります。

ヤマザキビスケット(株)では、モンデリーズ・インターナショナル・インクとのライセンス契約終了に伴うリッツ、オレオ、プレミアム等の類似製品の製造の制限が、本年12月1日より解除されます。ヤマザキビスケット(株)が長年培った技術により更に品質を向上させ、お客様に喜ばれる新製品として発売し、業績の向上を期す準備を進めております。

さらに、子会社各社がそれぞれの課題に的確に対応して業績の向上をはかり、新しい価値と新しい需要を創造して所期の目標達成をめざし努力してまいります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	107,327	104,128
受取手形及び売掛金	106,693	83,014
商品及び製品	10,928	11,381
仕掛品	613	1,065
原材料及び貯蔵品	9,255	8,342
繰延税金資産	4,027	4,244
その他	12,566	12,160
貸倒引当金	△365	△345
流動資産合計	251,045	223,991
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	362,128	365,091
減価償却累計額	△267,778	△270,742
建物及び構築物(純額)	94,349	94,349
機械装置及び運搬具	466,200	472,257
減価償却累計額	△392,450	△397,767
機械装置及び運搬具(純額)	73,749	74,490
工具、器具及び備品	29,528	31,707
減価償却累計額	△23,880	△24,399
工具、器具及び備品(純額)	5,647	7,308
土地	116,430	116,500
リース資産	19,999	17,810
減価償却累計額	△12,571	△11,502
リース資産(純額)	7,427	6,307
建設仮勘定	6,097	9,290
有形固定資産合計	303,702	308,246
無形固定資産		
のれん	12,436	11,801
その他	9,228	8,440
無形固定資産合計	21,664	20,241
投資その他の資産		
投資有価証券	73,757	76,141
長期貸付金	442	422
退職給付に係る資産	530	554
繰延税金資産	24,428	24,027
その他	31,114	32,383
貸倒引当金	△2,799	△2,872
投資その他の資産合計	127,472	130,657
固定資産合計	452,840	459,145
資産合計	703,886	683,136

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	78,799	73,158
短期借入金	59,384	57,237
リース債務	2,783	2,382
1年内償還予定の社債	390	140
未払法人税等	8,188	8,257
未払費用	38,493	34,223
賞与引当金	5,093	4,585
販売促進引当金	1,157	1,090
資産除去債務	4	53
その他	45,343	33,124
流動負債合計	239,636	214,253
固定負債		
社債	510	440
長期借入金	26,121	21,154
リース債務	4,837	4,336
役員退職慰労引当金	3,877	3,955
環境対策引当金	92	88
退職給付に係る負債	112,409	111,695
資産除去債務	4,384	4,421
その他	9,095	9,843
固定負債合計	161,327	155,935
負債合計	400,963	370,188
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	11,014	11,014
資本剰余金	9,666	9,666
利益剰余金	255,145	262,332
自己株式	△895	△897
株主資本合計	274,930	282,116
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	25,424	26,934
繰延ヘッジ損益	-	0
土地再評価差額金	99	99
為替換算調整勘定	△397	△177
退職給付に係る調整累計額	△21,281	△19,875
その他の包括利益累計額合計	3,845	6,980
非支配株主持分	24,145	23,851
純資産合計	302,922	312,948
負債純資産合計	703,886	683,136

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)
売上高	520,668	522,979
売上原価	328,636	331,970
売上総利益	192,031	191,009
販売費及び一般管理費	172,572	174,192
営業利益	19,458	16,816
営業外収益		
受取利息	50	42
受取配当金	530	569
固定資産賃貸料	312	358
持分法による投資利益	36	53
雑収入	553	742
営業外収益合計	1,483	1,767
営業外費用		
支払利息	546	426
為替差損	455	136
雑損失	172	197
営業外費用合計	1,174	760
経常利益	19,767	17,823
特別利益		
固定資産売却益	64	36
収用補償金	-	244
投資有価証券売却益	443	12
補助金収入	136	-
特別利益合計	644	293
特別損失		
固定資産除売却損	875	704
減損損失	444	454
その他	560	134
特別損失合計	1,881	1,293
税金等調整前四半期純利益	18,530	16,823
法人税等	8,587	6,184
四半期純利益	9,943	10,638
非支配株主に帰属する四半期純利益	544	134
親会社株主に帰属する四半期純利益	9,398	10,503

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	9,943	10,638
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5,757	1,498
繰延ヘッジ損益	△8	0
為替換算調整勘定	△513	188
退職給付に係る調整額	877	1,444
持分法適用会社に対する持分相当額	△9	20
その他の包括利益合計	△5,410	3,151
四半期包括利益	4,532	13,790
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,384	13,638
非支配株主に係る四半期包括利益	147	151

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	18,530	16,823
減価償却費	17,557	17,640
減損損失	444	454
のれん償却額	635	635
貸倒引当金の増減額(△は減少)	8	52
賞与引当金の増減額(△は減少)	162	△507
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	1,615	1,313
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	127	78
受取利息及び受取配当金	△581	△611
持分法適用会社からの配当金の受取額	91	110
支払利息	546	426
補助金収入	△136	-
投資有価証券売却損益(△は益)	△443	△12
持分法による投資損益(△は益)	△36	△53
固定資産除売却損益(△は益)	811	667
収用補償金	-	△244
売上債権の増減額(△は増加)	24,343	24,091
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,217	50
仕入債務の増減額(△は減少)	△6,527	△5,580
未払消費税等の増減額(△は減少)	△2,963	△1,236
その他	△2,989	△4,566
小計	52,413	49,531
利息及び配当金の受取額	581	611
利息の支払額	△556	△429
法人税等の支払額	△7,335	△6,751
収用補償金の受取額	-	152
営業活動によるキャッシュ・フロー	45,102	43,114
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額(△は増加)	1,075	254
有形固定資産の取得による支出	△17,694	△30,376
有形固定資産の売却による収入	237	110
無形固定資産の取得による支出	△488	△438
投資有価証券の取得による支出	△101	△270
投資有価証券の売却による収入	811	15
貸付けによる支出	△46	△23
貸付金の回収による収入	61	56
その他	△155	△1,946
投資活動によるキャッシュ・フロー	△16,300	△32,617

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	△505	△25
リース債務の返済による支出	△2,146	△1,592
長期借入れによる収入	2,475	2,263
長期借入金の返済による支出	△10,608	△9,389
社債の償還による支出	△717	△320
自己株式の取得による支出	△25	△1
配当金の支払額	△3,510	△3,939
非支配株主への配当金の支払額	△314	△448
財務活動によるキャッシュ・フロー	△15,351	△13,451
現金及び現金同等物に係る換算差額	△152	21
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	13,297	△2,933
現金及び現金同等物の期首残高	108,716	104,344
現金及び現金同等物の四半期末残高	122,013	101,410

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日。以下「回収可能性適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間から適用し、繰延税金資産の回収可能性に関する会計処理の方法の一部を見直しております。

回収可能性適用指針の適用については、回収可能性適用指針第49項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点において回収可能性適用指針第49項(3)①から③に該当する定めを適用した場合の繰延税金資産及び繰延税金負債の額と、前連結会計年度末の繰延税金資産及び繰延税金負債の額との差額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加算しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首において、繰延税金資産(投資その他の資産)が632百万円、利益剰余金が632百万円増加しております。

(セグメント情報等)

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	食品事業	流通事業	その他 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	485,913	29,954	4,800	520,668	—	520,668
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,526	3,390	16,640	23,556	△23,556	—
計	489,440	33,344	21,440	544,225	△23,556	520,668
セグメント利益又は損失(△)	19,468	△ 983	689	19,174	284	19,458

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額284百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	食品事業	流通事業	その他 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	488,378	29,445	5,155	522,979	—	522,979
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,307	3,394	17,710	25,411	△25,411	—
計	492,685	32,839	22,865	548,391	△25,411	522,979
セグメント利益又は損失(△)	16,564	△ 813	801	16,553	263	16,816

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額263百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 3. 補足情報

## (1) 連結販売実績

(単位: 百万円)

セグメント名称	区 分	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)		比 較 増 減	
		金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	金 額	前年同期比
食品事業	食 パ ン	50,286	9.7%	50,766	9.7%	480	101.0%
	菓 子 パ ン	182,014	35.0	180,797	34.6	△ 1,216	99.3
	和 菓 子	33,991	6.5	34,334	6.6	342	101.0
	洋 菓 子	66,508	12.8	66,566	12.7	57	100.1
	調理パン・米飯類	72,114	13.8	76,280	14.6	4,166	105.8
	製菓・米菓・その他商品類	80,997	15.5	79,632	15.2	△ 1,365	98.3
	食 品 事 業 計	485,913	93.3	488,378	93.4	2,464	100.5
	流 通 事 業	29,954	5.8	29,445	5.6	△ 509	98.3
	そ の 他 事 業	4,800	0.9	5,155	1.0	355	107.4
	合 計	520,668	100.0	522,979	100.0	2,311	100.4

## (2) 主要子会社実績

(単位: 百万円)

	売 上 高				営 業 利 益			
	前第2四半期	当第2四半期	増 減 額	増 減 率	前第2四半期	当第2四半期	増 減 額	増 減 率
(株)不二家(連結)	50,316	51,507	1,191	2.4%	638	200	△ 437	△68.6%
(株)サンデリカ	52,307	55,891	3,583	6.9	1,239	1,306	67	5.4
(株)ヴィ・ド・フランス	17,352	16,788	△ 564	△ 3.3	587	134	△ 453	△77.1
ヤマザキビスケット(株)	20,968	16,093	△ 4,875	△23.2	2,123	412	△ 1,710	△80.6
(株)東ハト	11,708	12,383	675	5.8	423	556	133	31.4

## (3) 平成29年12月期第2四半期の単体業績 (平成29年1月1日～平成29年6月30日)

## ① 単体経営成績

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期第2四半期	372,543	0.9	13,094	△ 0.9	15,030	4.2	9,867	29.4
28年12月期第2四半期	369,213	2.8	13,208	45.1	14,428	33.5	7,627	99.5

## ② 単体財政状態

	総資産	純資産
	百万円	百万円
29年12月期第2四半期	511,469	282,879
28年12月期	525,635	274,870

(注) 単体業績数値は、四半期財務諸表等規則に基づいて作成しておりますが、法定開示におけるレビュー対象ではありません。

## (4) 単体販売実績

(単位: 百万円)

期別 品 種 別	前第2四半期 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)		当第2四半期 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)		比較増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	前年同期比
食パン	49,776	13.5%	51,162	13.7%	1,385	102.8%
菓子パン	168,922	45.7	167,606	45.0	△ 1,316	99.2
和菓子	33,840	9.2	34,337	9.2	497	101.5
洋菓子	46,151	12.5	46,828	12.6	676	101.5
調理パン・米飯類	21,654	5.9	23,870	6.4	2,216	110.2
製菓・米菓・その他商品類	21,163	5.7	22,440	6.0	1,277	106.0
小計	341,508	92.5	346,245	92.9	4,737	101.4
デイリーヤマザキ事業	33,344	9.0	32,839	8.8	△ 504	98.5
内部消去	△ 5,639	△ 1.5	△ 6,541	△ 1.7	△ 902	—
合計	369,213	100.0	372,543	100.0	3,330	100.9